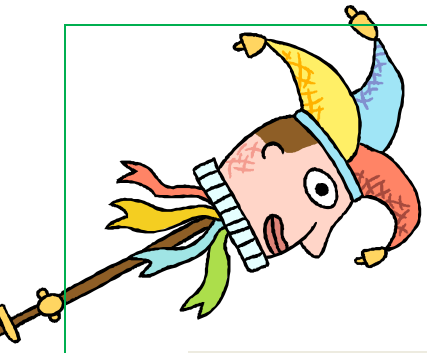

英語のジョーク宅配便

Vol. 342　November 14, 2016

OUR MISSION STATEMENT

「人を知る最善の方法は、苦しい仕事を一緒にすることと、ジョークを言ってみること」と言います。 これを「英語で発信」というのが本紙の使命で、受動から能動への一歩です。
「英語のジョークを楽しむ会」が活動領域をさらに広げようという試みです。
地球の一体化が益々進む時代、「英語でジョークを」は、新しい意義を加えるでしょう。

英語のジョークを楽しむ会(Joke-Loving Club=JLC)　代表・宮本倫好

●本紙は、原則として、**毎週月曜日**に配信します。
●執筆者は右の五名の本会会員です。**相原悦夫、岡田茂富、田村公雄、土屋政雄、豊田一男**

□■本日のお届け品:ブロンドの婦警

This blonde cop stops a blonde driver and asks for identification. The blonde driver looks all around in her purse and can't find her license. "I must have left it at home, officer." "Well, do you have any kind of identification on you?" asks the cop. The blonde takes out a pocket mirror and says, "I do have this picture of me." "Let me see it," says the cop. She holds up the mirror and looks in it. Then she says, "Sorry. If I had known you were a police officer, I wouldn't have stopped you."

【和訳】　ブロンドの婦警がブロンドの女性が運転している車を止め、免許証の提示を求めます。ブロンドの女性はバッグの中をさがしましたが、免許証はみつかりません。「お巡りさん、免許証はきっと家に忘れてきたんだわ」「じゃ、他に何か身分を証明するものがありますか？」と婦警はたずねます。ブロンドの女性はポケット・ミラーを取り出して言います。「わたしの写真がここにありますけど」「それじゃ、それを見せてください」と婦警は言って、それを手にとってのぞいて見て言います。「これは失礼しました。もしあなたが警官だとわかっていたら、車を止めて調べるなんてしませんでしたわ」

【笑いのツボ】こんなブロンドの婦警になら、取り調べを受けてみたいなあ。

●担当は、**岡田茂富**でした。